

「さんべ冬ステージ」

1 趣 旨

- ・主体的に社会に参画しようとしている青年が、将来のリーダーとなるための、リーダーシップを身につける上での体験を通じた学びの場を提供する。
- ・リーダーシップをキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で、対人関係能力等リーダーとして必要な資質の向上を図る。

2 事業の概要

- (1) 期 日
- ①企画編 平成 28 年 11 月 19 日 (土) ~ 11 月 20 日 (日) 【1泊2日】
 - ②準備編 平成 29 年 1 月 14 日 (土) ~ 1 月 15 日 (日) 【1泊2日】
 - ③本番編 平成 29 年 1 月 27 日 (金) ~ 1 月 29 日 (日) 【2泊3日】

(2) ボランティア参加者

- ①企画編 10 名 (大学生 10 名) ※募集 20 名
- ②準備編 20 名 (大学生 20 名) ※募集 20 名
- ③本番編 20 名 (大学生 20 名) ※募集 20 名

- (3) 「Wintering」参加者 23 名 (6 家族) ※募集 60 名程度

(4) 主な研修内容

【①企画編】

1 日目	○アイスブレイク ○テーマ検討 ○班編成・話し合い
2 日目	○企画の話し合い ○プレゼンテーション ○ふりかえり

【②準備編】

1 日目	○アイスブレイク ○テーマ確認 ○企画についての検討・試行・準備
2 日目	○企画の見直し・試行 ○ふりかえり

【③本番編】

1 日目	○テーマ確認 ○企画の準備
2 日目	○企画の準備 ○企画の運営「Wintering 1 日目」
3 日目	○企画の準備 ○企画の運営「Wintering 2 日目」 ○ふりかえり

(5) 「Wintering〜外へとびだせ！みんなで遊ぼう in さんべ」の日程

1/28 (土)	10:30	13:30	17:10		19:00	21:00
	受付 オリエンテーション 昼食	企画① 「雪だるまつくろ〜♪」	企画② 「季節外れのサンタクロース大作戦」	つどい 夕食 入浴	企画③ 「親子でレクリエーション！」	自由時間 就寝
1/29 (日)	6:30	8:40	9:30	12:00	13:30	14:30
	起床 つどい 朝食	退所点検	企画④ 「三瓶・雪合戦・冬の陣！」	昼食	閉会式	解散

3 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、第 3 回目に行う自主企画事業の企画から運営に至るまでを全て参加者である当所の法人ボランティア (以下：さんボラ) が行うものであり、企画編、準備編の日程から自分たちで主体的に活動していく。企

画・運営における様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返すことで、対人関係能力等リーダーとして必要な資質の向上を図ることをねらいとしている。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

本事業は、全3回の構成とした。「企画編」では、事業の方向性やプログラムの内容を決めたりするための話し合いをメインとし、2日目に施設職員へのプレゼンを設定することで多角的な視点から考えることができるようにした。「準備編」では、「企画編」で出た課題を改善したり、本番でのさんボラやさんボラ企画事業の参加者（以下：「Wintering」参加者）の動きを確認したりすることで、安全面の確認や、リスクマネジメントについても考えるようにした。「本番編」では、実際に事業運営を行う。

4 成果と課題

《成果》

- ・企画編の最初に自分たちが開催する事業の目的と、ゴールイメージの設定について話し合った。意見が対立する場面もあったが、さんボラそれぞれが意見を出し合い、時間をかけて全員で目的とゴールイメージを共有することができた。企画の話し合いの途中で目的に立ち返って論点を整理する姿が見られるなど、それらが柱となり、全員で同じ方向を向いた上で、企画、準備、運営を行うことができた。
- ・担当職員はさんボラのリーダーとしての資質に繋がる自主性、主体性を大切にすることに重点を置き、活動中は「ファシリテーター」としてのスタンスを徹底した。必要最低限の助言をしたり、疑問を投げかけたりするようにしたことで、さんボラ同士で意見を出し合い、関わり合う機会が多かった。「企画力・運営力アップセミナー」、「さんベ夢ステージ」に続いて参加したさんボラが、「夢ステではあまり自分から意見を言えず、思うことがあっても黙ってしまっていたが、冬ステージでは何かあったら言うという姿勢で取り組み、よく発言もできた。」と自分を振り返っていた。自主企画事業ということで、人任せにせず、自分から積極的に動いていかなければという意識の変容が対人関係力等リーダーとして必要な資質の向上につながったと考える。

《課題》

- ・昨年度までの「さんベミニ冬まつり」と違い、ターゲットとする学年層や日程、内容等細かな部分までさんボラが決め、事業のチラシや参加決定通知書も自分たちで作成した。しかし、企画編、準備編、本番編の3回だけでは時間が足りず、各回以外にLINEグループの活用や、空き時間に集まり何度も話し合いや準備等をしてきたが、大変厳しかった。期日以外の活動は島根大学の基礎体験時間認定されないこともあり、次年度は極力冬ステージで活動時間を確保できるように回数を増やし、余裕のある構成にしていくことが必要である。
- ・今回さんボラ作成のアンケートを「Wintering」参加者に実施し、それをもとに自分たちの事業を振り返った。しかし、十分な時間を設定することができなかった。自主企画事業を企画・運営するに当たり、事業の企画面、運営面の評価、分析を十分にできるよう、振り返りや分析の時間を充実させることが課題である。
- ・7月に開催した「企画力・運営力アップセミナー」の実践編という位置づけでもあり、今回参加したさんボラのうち4人が参加していた。彼らが中心となって動いたり発言したりする姿が多く見られたが、前回から期間が空いたため、企画を立てる際のポイントを忘れていたという実態があった。「企画力・運営力アップセミナー」で身につけたスキルを企画に生かしていくため、次年度は冬ステージの企画編と「企画力・運営力アップセミナー」を兼ねるなど、事業の構成を再考していく必要がある。



(担当：企画指導専門職 辻田 渉)